

大鹿リニア止める実行委員会が着工中止求め、

国交省・環境省・JR東海に申し入れ。

JR東海は面会と文書の受け取りを拒否、

社長の「住民の理解求める」はウソ。

国には指導責任を果たす義務がある。

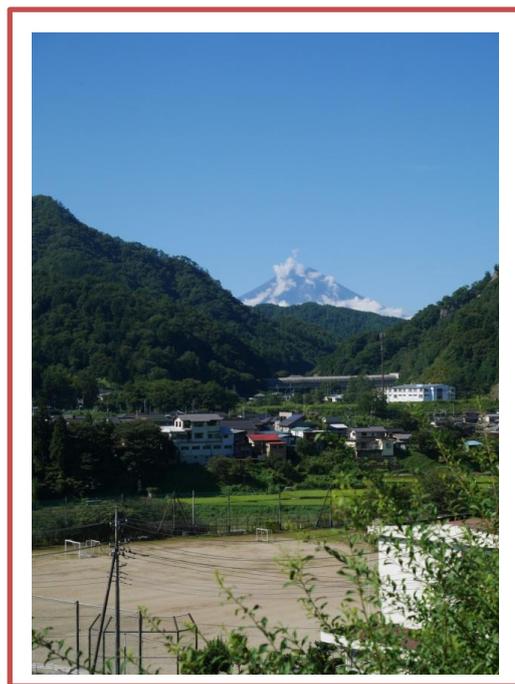
10月28日午前10時から、衆議院第一議員会館で、大鹿村で強行が予定されているリニア新幹線工事の起工式の中止を求める**大鹿リニアを止める実行委員会**と国土交通省、環境省との交渉が行われ

ました。大鹿村からは実行委員会代表の宗像充さんと村のリニア対策委員でもある前島久美さんの二人が出席、リニア新幹線沿線住民ネットワークの天野捷一、同事務局長の懸樋哲夫両氏やリニア・市民ネット東京とリニア新幹線を考える東京・神奈川のメンバーが参加しました。また、日本共産党から穀田恵二、本村伸子の両衆議院議員が同席し意見を述べました。

交渉では、大鹿村からの参加者が、「村民の声を無視し、工事確認書の締結、村議会の同意と矢継ぎ早に手続きだけを進め、11月1日に起工式を強行することは、環境大臣意見や国交大臣意見に反するものであり、両省が早急に起工式を中止するよう指導してもらいたい」、「JR東海は、リニア工事の中止を求める村民の説明会参加を拒むなど、丁寧な説明を行い住民の理解を求めると言いながら実際は真反対の傲慢な姿勢である」、「JR東海は村民の理解が得られたと言うが、誰も納得していない。大鹿村の方々の理解が得られない限り工事はしないと断っていたのはウソだったのか」と声を上げました。他の参加者からも、「両省はリニア工事について大臣があれば自然環境や生態系、住民生活に配慮した保全措置を求めているのに、どのような工事になるのかチェックをしていない。大鹿村に来て、JR東海がどのような調査をして同工事を進め、どのような環境保全措置を取るのか自分の目で確かめてほしい」など、JR東海の説明責任の放棄と国の指導不足を指摘する発言がありました。これに対し、両省の出席者は、「手続きに従い工事認可を行った」、「リニアは民間企業の事業であり、工事についてはJR東海が責任をもって遂行すると考える」、「皆さんの今日のご意見はJR東海に伝える」などと答え、工事の進め方などの説明について、JR東海の不誠実な住民対応を積極的に指導する姿勢は見えませんでした。

参加した穀田議員が、環境省意見についてそれが正しく工事計画に反映されているかを調査し改めて回答することを求め、環境省も回答を約束しました。

交渉は11時すぎまで行われ、このあと参加者は品川駅港南口に移動し、雨の中1時間にわたってリニア新幹線反対のチラシを配布しました。





(品川駅で訴える前島久美さん)



(品川駅デッキの横断幕)

しめくくりにはJR東海の東京本社に行き、受付でリニア担当社員を呼んでほしいと求めたところ、受付や警備員が「アポなしはだめです」、「リニアについては東京環境保全事務所で問い合わせに答えることになっている」と地図を出して「こちらに行ってほしい」と盛んに言う（東京環境保全事務所に行っても、こちらは東京の方の問い合わせに答えるところなので、大鹿村の工事事務所に行ってくださいと言われるのに）。ついには「お客様の迷惑になりますから」と言い出す。

（私たちは東海道新幹線の利用者であり、JR東海にとってお客様なのですが）。実は大鹿村の宗像さんにJR東海の広報課社員M氏から前日、「申し入れはJR東海の大鹿村工事事務所に行ってください」との電話があり、報道陣が同行するのにか気にかけていたとのことでした。「大鹿村の事務所では埒があかないのでこちらに来た」などと抗議している様子を黙って見ていた背広姿の男性がいたので、声をかけたところ実はその男性はJR東海の社員でしかも、電話をかけたM氏であることが判明、最初から名乗って応待しろよと詰め寄り、柘植康英社長宛の申し入れ書の受け取りを求めたところ、不遜にも受け取りを拒否しました。私たちは「受付に置いておくと、社長宛に申し入れ書は郵

送する」として、受付でのスタスタモンダを打ち切りました。

以前「リニアが嫌なら引っ越せばいい」とJR東海社員らしき者から言われたことがありますが、「住民なんてどうでもいい」というのが、大企業ではありますが決して一流企業ではないJR東海の変わらぬ姿勢です。

こんな企業に日本の大自然や国民生活を壊されたらたまりません。それにしても、9兆円の世界最大の土木事業をJR東海に丸投げしている国の責任は限りなく重いのです。

(報告：リニア沿線ネット天野)

<追記>

大鹿村はJR東海との間で10月19日、「リニ工事車両の走行等に関する確認書」を締結しました。村議会は非公開で協議し1票差で事実上のリニア工事受入れを決めました。住民の意見は全く反映されず、村にとって全くメリットが無い片務的な確認書を、国の威光をバックにしたJR東海の圧力を受けてやむなく同意したものと考えますが、こうしたやり方は地方自治本来のあり方に反し、地元で暮らす人たちの主体性を奪うものです。

人口7千万のスーパーメガリージョンのために地方は犠牲を強いられるだけです。

2016年10月28日

申し入れ書

代表取締役社長
柘植 康英 様

大鹿リニアを止める実行委員会
長野県下伊那郡大鹿村大河原2208
宗像 充

常日頃より列車の安全運行にご尽力くださり、ありがとうございます。

私たちは、長野県大鹿村に住む住民です。私たちの村はリニア中央新幹線の南アルプストンネルの長野県側の工事現場にあたります。この度、11月1日での南アルプストンネルの着工起工式を経て、JR東海はトンネル工事の着工を表明しました。

かねてからJR東海は工事着工にあたって、私たちの前で住民の「理解と同意」が必要と述べてきました。ところが、10月14日に最後の住民への工事説明会が開催された後、3日後の17日に村はJR東海と確認書を交わすことを表明しました。21日には大鹿村長が着工同意を表明しています。地元紙の信濃毎日新聞は、21日の朝刊で11月1日の起工式の日程を掲載しています。村の同意がJR東海のスケジュールのためになされたのは明らかです。

南アルプスの自然が壊されるだけでなく、坑口4カ所、残土仮置き場9カ所、送電鉄塔・送電線、変電施設、作業員宿舎等々、数々の工事施設とともに、一日最大1736台の工事車両が通行予定の大鹿村は、工事が始まれば一大工事プラントと化します。環境と生活を守るため、1000人の人口で毎回100人前後の住民が何度も説明会に足を運びました。ところが、説明会では、計画に疑問や不安、反対の声が出れば、JR東海の方は「賛成の人もいる」と疑問に答えられないばかりか、「だったらどうしたらいいと思いますか」と事業者としての解決策を放棄する無責任な発言で、私たち住民を愚弄しました。村の対策委員会に出たJR東海の澤田尚夫中央新幹線建設担当部長は、対策委員の一人が異論を唱えると「反対しているのはあなただけでしょう」と言い放っています。しかしながら、住民の説明会後の記者会見で澤田部長は、「住民の理解が得られた」とくり返しています。

今、村は刈り入れの季節です。毎日天気を見ながら住民は農作業に追われています。生活を守るために計画に意見を言うためには、自分の生活を犠牲にするしかないのです。始まる前から住民生活を犠牲にして顧みない工事に、私たちは理解も同意もできません。住民の不信が募り、工事着工の条件は整うどころか、その基盤が損なわれています。

長野県内では残土置き場予定地も決まっていません。工事に関する、森林や河川についての規制の解除手続きもこれからです。工事の先行きが不透明な中、着工などありえません。公的資金の融資の返済に財務大臣が「それまで生きている保証はないから」分からないと言いつつような無責任な事業のために、私たちの村と生活を犠牲にしないでください。

私たちの村での着工をしないでください。そしてリニア新幹線事業を中止して下さい。

2016年10月28日

申し入れ書

代表取締役社長
柘植 康英 様

大鹿リニアを止める実行委員会
長野県下伊那郡大鹿村大河原2208
宗像 充

常日頃より列車の安全運行にご尽力くださり、ありがとうございます。

私たちは、長野県大鹿村に住む住民です。私たちの村はリニア中央新幹線の南アルプストンネルの長野県側の工事現場にあたります。この度、11月1日での南アルプストンネルの着工起工式を経て、JR東海はトンネル工事の着工を表明しました。

かねてからJR東海は工事着工にあたって、私たちの前で住民の「理解と同意」が必要と述べてきました。ところが、10月14日に最後の住民への工事説明会が開催された後、3日後の17日に村はJR東海と確認書を交わすことを表明しました。21日には大鹿村長が着工同意を表明しています。地元紙の信濃毎日新聞は、21日の朝刊で11月1日の起工式の日程を掲載しています。村の同意がJR東海のスケジュールのためになされたのは明らかです。

南アルプスの自然が壊されるだけでなく、坑口4カ所、残土仮置き場9カ所、送電鉄塔・送電線、変電施設、作業員宿舍等々、数々の工事施設とともに、一日最大1736台の工事車両が通行予定の大鹿村は、工事が始まれば一大工事プラントと化します。環境と生活を守るため、1000人の人口で毎回100人前後の住民が何度も説明会に足を運びました。ところが、説明会では、計画に疑問や不安、反対の声が出れば、JR東海の方は「賛成の人もいる」と疑問に答えられないばかりか、「だったらどうしたらいいと思いますか」と事業者としての解決策を放棄する無責任な発言で、私たち住民を愚弄しました。村の対策委員会に出たJR東海の澤田尚夫中央新幹線建設担当部長は、対策委員の一人が異論を唱えると「反対しているのはあなただけでしょう」と言い放っています。しかしながら、住民の説明会後の記者会見で澤田部長は、「住民の理解が得られた」とくり返しています。

今、村は刈り入れの季節です。毎日天気を見ながら住民は農作業に追われています。生活を守るために計画に意見を言うためには、自分の生活を犠牲にするしかないのです。始まる前から住民生活を犠牲にして顧みない工事に、私たちは理解も同意もできません。住民の不信が募り、工事着工の条件は整うどころか、その基盤が損なわれています。

長野県内では残土置き場予定地も決まっていません。工事に関する、森林や河川についての規制の解除手続きもこれからです。工事の先行きが不透明な中、着工などありえません。公的資金の融資の返済に財務大臣が「それまで生きている保証はないから」分からないと言い放つような無責任な事業のために、私たちの村と生活を犠牲にしないでください。

私たちの村での着工をしないでください。そしてリニア新幹線事業を中止して下さい。

2016年10月28日

申し入れ書

国土交通大臣
石井 啓一 様

大鹿リニアを止める実行委員会
長野県下伊那郡大鹿村大河原2208
宗像 充

常日頃より国土の保全にご尽力くださり、ありがとうございます。

私たちは、長野県大鹿村に住む住民です。私たちの村はリニア中央新幹線の南アルプストンネルの長野県側の工事現場にあたります。この度、11月1日での南アルプストンネルの着工起工式を経て、JR東海はトンネル工事の着工を表明しました。

かねてからJR東海は工事着工にあたって、住民の「理解と同意」が必要と述べてきました。ところが、10月14日に最後の住民への工事説明会が開催された後、3日後の17日に村はJR東海と確認書を交わすことを表明しました。確認書の内容は、その後わずか2日間、村のホームページに示され、21日には大鹿村長が着工同意を表明しています。ところが、地元紙の信濃毎日新聞は、21日の朝刊で11月1日の起工式の日程を掲載しています。村の同意がJR東海のスケジュールのためになされたのは明らかです。

南アルプスの自然が壊されるだけでなく、坑口4カ所、残土仮置き場9カ所、送電鉄塔・送電線、変電施設、作業員宿舍等々、数々の工事施設とともに、一日最大1736台の工事車両が通行予定の大鹿村は、工事が始まれば一大工事プラントと化します。環境と生活を守るため、1000人の人口で毎回100人前後の住民が何度も説明会に足を運びました。ところが、説明会では、計画に疑問や不安、反対の声が出れば、JR東海は「賛成の人もいる」と疑問に答えられないばかりか、「だったらどうしたらいいと思いますか」と事業者としての解決策を放棄する無責任な発言で、住民を愚弄しました。村の対策委員会に出たJR東海の澤田尚夫中央新幹線建設担当部長は、対策委員の一人が異論を唱えたと「反対しているのはあなただけでしょ」と言い放っています。しかしながら、住民の説明会後の記者会見で澤田部長は、「住民の理解が得られた」とくり返し、村に同意を迫りました。2014年の着工認可時、国土交通大臣は「地元住民等への丁寧な説明を通じた地域の理解と協力」をJR東海に求めました。これのどこが丁寧な説明でしょうか。

今、村は刈り入れの季節です。毎日天気を見ながら住民は農作業に追われています。生活を守るために計画に意見を言うためには、自分の生活を犠牲にするしかないのです。始まる前から住民生活を犠牲にして顧みない工事に、私たちは理解も協力もできません。

長野県内では残土置き場予定地も決まっていません。工事に関する、森林や河川についての規制の解除手続きもこれからです。工事の先行きが不透明な中、着工などありえません。公的資金の融資の返済に財務大臣が「それまで生きている保証はないから」分からないと言い放つような無責任な事業のために、私たちの村と生活を犠牲にしないでください。

私たちの村での着工をしないように、JR東海に求め、工事認可を取消してください。

2016年10月28日

申し入れ書

環境大臣
山本公一 様

大鹿リニアを止める実行委員会
長野県下伊那郡大鹿村大河原2208
宗像 充

常日頃から環境の向上にご尽力くださり、ありがとうございます。

私たちは大鹿村に住む住民です。私たちの村はリニア中央新幹線の南アルプストンネルの長野県側の工事現場にあたります。この度、11月1日の南アルプストンネルの起工式を経て、JR東海は長野県初の工事着工を表明しました。南アルプスの自然が壊されるだけでなく、坑口4カ所、残土仮置き場9カ所、送電鉄塔・送電線、変電施設、作業員宿舎等々、数々の工事施設とともに、一日最大1736台の工事車両が通行予定の大鹿村は、工事が始まれば一大工事プラントと化します。そのため私たち住民は、十分な話し合いと環境への保全措置をJR東海に求めてきました。

本工事の認可において、貴省は環境影響評価書に対する環境大臣意見として、残土や国立公園、生物圏保全地域、希少種の保護、住民の意見聴取など、各点において厳しい意見を付しているのは知っての通りです。

ところが、長野県内においては、JR東海の着工予定の昨年秋から1年を経た現在、残土の管理計画どころか、どこに置くのか1カ所も決まっていません。村内の残土仮置き場は、環境大臣が避けるべきと述べた、登山道周辺や住民生活から見えない場所どころか、集落の真下で登山者が往来する場所です。その上、地元住民が登山者向けの宿泊施設として計画を進めていたかつての宿泊施設を取り壊してまで、残土置き場が提案されています。それどころか、村内の若者は、ユネスコエコパークの持続可能な地域づくりの理念に沿った、エコツアーの団体設立を願っていたのに、JR東海の残土計画のために構想がとん挫しました。村内の架橋予定地はクマタカの生息地です。説明会でいくら疑問を呈しても、説明会が終わればJR東海は「住民の理解が得られた」と記者発表します。環境大臣意見は私たちの村ではなきも同然です。こんな状況で工事を着工すれば、私たちの村も人間関係も壊されて、取り返しのつかない環境破壊だけが残されます。

JR東海が環境大臣が把握すべきと述べた登山者等の利用実態を調べた形跡はありません。村内を工事車両が最大1736台通行すれば、事実上登山客は絶えてしまいます。環境省がリニアの工事をこのまま放置するなら、国立公園は事実上国民は利用できなくなります。その上、持続可能な地域づくりの基盤が将来に渡って損なわれます。

JR東海の南アルプストンネルの着工を環境省は止めるようすぐに指導して下さい。そして今からでも遅くないので、認可を取り消すよう、国土交通大臣に強く求めて下さい。

2016年10月28日

環境大臣 山本公一殿

長野県大鹿村のリニア新幹線工事の中止を求める申し入れ

リニア新幹線について、東海旅客鉄道株式会社（以下JR東海）は10月19日、長野県大鹿村との間で「工事用車両通行等に関する確認書」を締結し、11月1日に南アルプストンネル工事のための道路拡幅工事などの着工式を行う予定である。

大鹿村ではこれまで行われた住民説明会で、JR東海は村民の理解が得られないうちは工事を行わないことを表明していた。にもかかわらず先日の地元説明会では村のリニア対策委員の参加を拒否した上、「村民の理解が得られた」として工事の着工を急ぎ、村に建設発生土置き場の確保などを求める一方的な確認書を結んだ。

大鹿村では、リニア計画の発表以来、村民の多くが工事によって南アルプス山麓に広がる自然豊かな「日本一美しい村」の環境や住民生活が回復不能な被害を受けるとして、村民の同意が得られないまま工事を開始しないよう求めて来た。

また、JR東海による環境影響評価提出にあたって環境大臣は、「リニア新幹線事業はその規模の大きさからして、環境保全に最大限の配慮を図っても、なお環境に与える負荷を回避できない」と指摘し、「住民や地元公共団体の理解を得なければ到底実現することはできない」との意見を提出し、国土交通大臣もこの意見を尊重するとしている。

今回、JR東海が住民理解への最大限の努力を怠ったまま、拙速に工事を始めることは許されない。

いうまでもなく、リニア新幹線は狭い日本列島の中心部で行う世界最大の土木事業である工事が実施されれば、ユネスコエコパークに指定され、国内のみならず世界から保全の声が上っている南アルプスを25キロの長大トンネルを貫くことで、地下水の流出・枯渇が予想され、膨大な数の工事車両の走行や残土置き場の設置により、不可逆的な環境破壊につながり、長期に工事で車両の走行による騒音・振動・大気質の悪化などが確実である。

私たちは、JR東海に対し、着工を中止し、地元住民の理解を求めて真摯に話し合いを続けるよう求め、11月1日の着工式の中止を要請する。国土交通省、環境省も、予想される多大な影響を心配する村民の悲痛な声を受けて、拙速な着工をしないようJR東海を指導するよう強く求めるものである。

リニア新幹線沿線住民ネットワーク

共同代表 天野捷一、川村晃生、片桐晴夫、原重雄

